

# 平成29年 伯耆町防災の日(避難訓練)

～大切な生命・家族・財産を守るために～

避難訓練は、避難経路を覚え、災害時のパニック状態を抑制し、いざという時の手順を覚えるために行われる訓練です。



## ●と き

9月24日(日) 午前8時～

## ●と ころ

各実施集落

## ●訓練想定

鳥取県西部を震源とする地震発生。  
伯耆町は震度6強を記録

## ●今年の取組

### 1. 緊急地震速報により、まずは各自が身の安全を確保すること

緊急地震速報(チャイムと放送)によりまずは、各自が机・テーブルの下にもぐる、姿勢を低くして頭部を手で保護するなど状況に応じて身の安全を確保しましょう。

### 2. 安全な仮避難地を、集落で確認

役場が避難場所に指定しているところにこだわらず、集落のみなさんで話し合っ、安全な場所を集落の避難場所と決めましょう。

### 3. 集落の仮避難地までの避難ルートを、各自が確認

マンホールや崖の下、川の近くは危険なことがあります。避難場所までの安全なルートを、各世帯で確認しておきましょう。

### 4. 避難する時は、近所の人と声をかけあって

お年寄りや子ども、病気の人などは、早めの避難が必要です。互いに声をかけあって、避難に協力しましょう。要援護者の対応を話し合っておきましょう。

### 5. 避難の際の持ち出し品を各自が確認

災害が発生した時に、すぐに持ち出すものについて、各自で準備・確認しておきましょう。

### 6. 要援護者の確認

各集落の要援護者台帳で該当者の所在を確認し、援護を必要とする方への避難方法について検討しましょう。

※平成27年5月に全戸配布された「伯耆町防災ハンドブック」をご参照ください。  
※この避難訓練は、集落ごとに実施されます。実施の有無については、集落にご確認ください。

ご協力をよろしく申し上げます。

伯耆町区長協議会

# 地震

# 安全対策10か条

## チェックポイント

地震から身を守る最大のポイントは、日ごろの備え。ケガや火災などの二次災害を引き起こさないためにも、いざという時の行動を頭にたたき込んでおきましょう。

地震の発生と同時にタンスが倒れたが、寝室には大きな家具を置いてなかったので助かることができた。

**ポイント** 家具の転倒防止と家の中に安全なスペースをつくるのが大切。

玄関ドアがゆがんで、家の中に閉じ込められた。窓ガラスを割って外へ出ることができた。

**ポイント** 玄関ドアが鉄製などは注意が必要。玄関以外からも脱出する場所の確保が大切。

### 1 まず身の安全を！

ケガをしたら火の始末や避難がおくれてしまいます。家具の転倒や落下物には十分な対策を。



### 2 すばやく火の始末

揺れを感じたらすばやく行動。火元付近には燃えやすいものを置かない習慣を。



### 3 戸を開けて出口の確保

震動でドアが開かなくなることも。戸を開けて避難口の確保を。



### 4 火が出たらすぐ消火

万一出火しても天井に燃え移る前なら大丈夫。あわてず消火を。



### 5 あわてて外に飛び出さない

飛び出しはケガのもと。冷静な判断を。



### 6 狭い路地やブロック塀には近づかない

ブロック塀や自動販売機は倒壊の恐れが。すばやく避難を。



### 7 協力し合って応急救護

地域ぐるみで協力し合って応急救護の体制を。



### 8 山崩れ、がけ崩れ、津波に注意

居住地の自然環境を把握して二次災害防止の心掛けを。



### 9 避難は徒歩で

マイカーでの避難は危険なうえ緊急出動の障害に。ルールを守る心のゆとりを。



### 10 正しい情報を聴く

事実はひとつ。間違った情報にまどわされず的確な行動を。



家の倒壊で下敷きになり、動くことができなかったが、近所の人の協力で助け出された。

**ポイント** ふだんから地域とふれあい、互いに助け合う地域づくりが大切。



地震発生後、うわさやデマが流れたが、ラジオからの情報で惑わされなかった。

**ポイント** ラジオ、防災行政無線で正確な情報を得て、行動することが大切。

## 知って得する

### 地震の震度

震度 0



人体には無感。地震計にしか感じない。

震度 1



敏感な人や静止している人が感じる。

震度 2



障子や戸がわずかに揺れる。

震度 3



家屋や木々が揺れる。

震度 4



花瓶などが倒れる。

震度 5(弱)



食器類や書籍が落ち家具が移動し、窓ガラスが割れることがある。

震度 5(強)



テレビが台から落ち、重い家具や自動販売機が倒れることがある。

震度 6(弱)



かなりの建物で壁のタイルや窓ガラスが破損、落下する。

震度 6(強)



立っていることができず、はわないと動くことができない。

震度 7



耐震性の高い建物でも、傾いたり、大きく破損するものがある。